特集「インタラクション技術の革新と実用化」の編集にあたって

垂 水 浩 幸†

本特集は，本学会ヒューマンインタフェース研究会（主査：増井俊之）とグループウェアとネットワークサービス研究会（主査：星徹）（2000 年度まではこれに加えて（旧）情報メディア研究会）が毎年 2 月末〜3 月上旬に開催しているシンポジウム「インタラクション」に関連して企画されたものである．

WWW の普及以降，そして特に日本では携帯電話による情報サービスの市場拡大に伴い，一般のエンドユーザがさまざまな情報メディアと接し，インタラクションを行ったり，あるいは他の人々とのコミュニケーションを行ったりする活動はますます活発化している．ヒューマンインタフェース技術，グループウェア技術，ネットワークサービス技術，そしてこれらを横断するキーワードとも言える「インタラクション」技術の重要性が増していることは言うまでもない.「インタラクション」シンポジウムの発表申込件数と参加者数は増加の一途をたどっており，2002 年のシンポジウムでは 320 名の参加者を集め，30 件の投稿から厳正な査読で選ばれた 12 件の論文発表と，71 件のインタラクティブ発表が行われた．

これらの発表の中には学会論文誌に論文やテクニカルノートとして発表できるクォリティのものが多く含まれている.「インタラクション」シンポジウムで発表された研究成果を集め，さらに同分野の論文投稿を広く募集して成果の一覧性を高める目的で，本特集号は企画されている．これまでにも，1998 年 5 月号の「次世代ヒューマンインタフェース・インタラクション」特集，1999 年 2 月号の「ヒューマンインタフェースとインタラクション」特集，2000 年 5 月号の「人とコンピュータの新しい相互作用系」特集，2001 年 6 月号の「次世代インタラクションのための情報技術」特集が，同シンポジウムに関連して企画されている．今回は 1 年半ぶりの発行となる．

今回の特集には，論文 35 件，テクニカルノート 3 件の投稿があり，査読者とメタレビュアによる厳正な審査の結果，そのうち論文 17 件，テクニカルノート 3 件を採録した．審査された論文の採択率は 50%（1 件は審査前に取り下げのため）であり，前回の 37%を上回った．査読に当たっては，タイムリーな話題や有用性の高い論文をできるだけ早く掲載できるように努力した．

採録された論文とテクニカルノートの分野は,「コミュニティとエージェント」7 件,「実世界指向とマルチモーダルインタフェース」5 件,「バーチャルリアリティ」3 件,「Web とテキスト処理」3 件,「ユーザビリティ」2 件である．全体的な傾向として，たとえば 98〜99 年ごろと比較すると，明らかにコミュニティ系，ネットワーク系，実世界指向系の研究が活性化しているように見受けられる．

最後に本特集号を刊行するにあたり，多数の優れた論文を投稿し，また短期間の論文改訂に努力していただいた著者の方々，短時間で査読するためにご尽力いただいた編集委員・査読者各位に深く感謝する．

「インタラクション技術の革新と実用化」特集号編集委員会

- 編集長
  垂水　浩幸（香川大/スペースタグ）

- 編集委員
  大野　健彦（NTT）
  片寄　晴弘（関西学院大）
  小池　英樹（電通大）
  中小路久美代（東大）
  西本　一志（北陸先端大/ATR/科技団さきがけ研究 21）
  福本　雅明（NTT ドコモ）
  増井　俊之（ソニー CSL）
  間瀬　健二（名大/ATR）
  任　　向実（高知工科大）

† 香川大学/（株）スペースタグ